

茅ヶ崎発祥の「ビーチサン飛ばし」

ビーチサンダルを履いた足を振り抜き、その飛んだ距離を競う「ビーチサン飛ばし」。砂浜で開催されるイベントとして、最近よく見掛けるようになった。実は、茅ヶ崎はその発祥の地。「ビーチサン飛ばし世界選手権」を企画・運営するビーチサン協会の岩井信之会長(38)は、茅ヶ崎市東海岸南在住で仕掛け人の一人だ。ビーチサン飛ばしを盛んにする背景には、「子どもたちがはだして遊べる砂浜をいつまでも残したい」という願いが込められている。

(田口 要)

茅ヶ崎の砂浜をはだして駆け回る子どもたち。だが以前は「割れた瓶が至る所に落ちていたり」。本当に危険だった。岩井会長は振り返る。「ごみが散乱する砂浜の現状を憂えた地元ミュージシャンが、拾ったごみを入場券にするコンサートを考案。「きれいなビーチ」を考えた。みんなが楽しめる遊びはないか。冬でもビ-

仕掛け人の一人 岩井 信之さん

サンを履いている茅ヶ崎市民がビーチサン飛ばしを思い付くのに、時間はかからなかった。

◆ ビーチサン飛ばしには、遊び心いっぱい公式ルールがある。

ある。協会はコートを縦55センチ、横5センチと設定。もしメジャーがないときは、ビーチサン



はだして遊べる砂浜願

を利用するよう推奨している。点。海岸清掃をしないと、ビーチサン飛ばしは言えない。

長さ25センチを1ビーチサンとし、縦140センチ、横20センチ。1989年に茅ヶ崎で誕生

りだ。また高さ6センチ(1

50センチ)の位置からビーチサンした海の遊びは、いまや全国各地で開催されるまでになっ

て落し、真下から1ビーチサン(25センチ)以上それるほど風

が吹いている場合、参考記録のような危険な砂浜がまだ少な

くなる。審判は赤色と白色の

「ビーチサン飛ばし」

のためにごみを拾おうと思えば、気軽に海岸清掃に参加で

きるはず。「たかがビーチサン飛ばし、されどビーチサン飛ばし」です」と岩井会長。いつ

かどの海岸でも、子どもたちがはだして駆け回ることができ

る日を夢見ている。

最後に…。ビーチサンを遠くに飛ばすことを聞いた。無欲

で、ウケを狙わず、うつぶんを晴らすかのように足を振り

抜く。ただあま

りうつぶんをためすぎると、

岸をきれいにしよう』が発

後に飛んでしまいますよ」



ビーチサンダルを手にポーズを取る岩井会長